



協会けんぽの財政状況

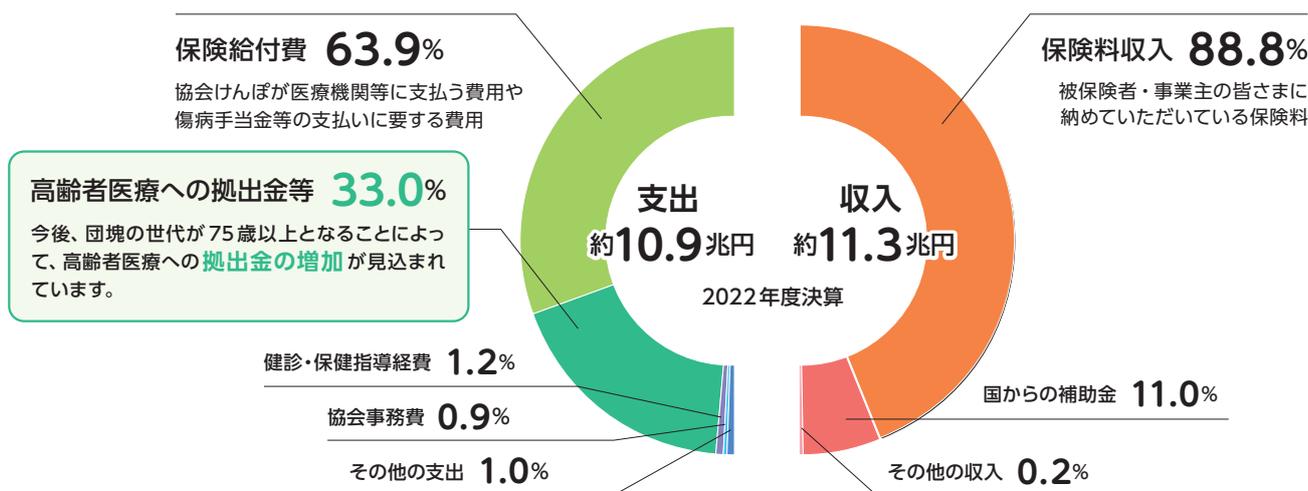
協会けんぽの財政は、楽観を許さない状況です

協会けんぽの財政構造

協会けんぽの主な収入は、被保険者・事業主の皆さまに納めていただく保険料です。

また、支出の約6割は、皆さまが医療機関等を受診した際の医療費や各種給付金に使われています。

一方、約3割は、高齢者医療への拠出金等に使われており、重い負担になっています。



皆さまの保険料1万円あたりの使い道



加入者の皆さまが医療機関等を
受診したときの医療費
約**5,770円**



加入者の皆さまが病気で
職場を休んだ際の手当金や
出産したときの給付金
約**620円**



高齢者の方々が医療機関等を
受診したときの
医療費(拠出金)
約**3,300円**



加入者の皆さまの
健診・保健指導経費
約**120円**



協会けんぽの
事務経費等
約**190円**

2022年度決算のポイント

2022年度の決算は収入が11兆3,093億円、支出が10兆8,774億円で、収支差は4,319億円となりました。

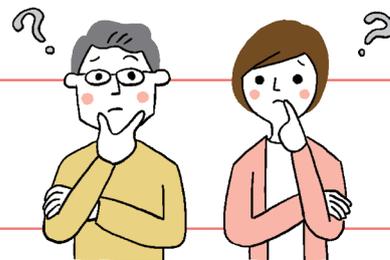
ポイントとして、収支差は前年度比で増加(+1,328億円)しましたが、この要因は、保険料収入の増加(+1,868億円)より保険給付費の増加(+2,502億円)が上回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う2020年度の高齢者の医療費の一時的な減少により、後期高齢者支援金に多額の精算(戻り分1,901億円)が生じたこと等によって支出の伸びが抑えられたことによるもので、一時的な特殊事情によるものです。

	2022年度決算	医療分
収入	11兆3,093億円	(+1,813億円)
支出	10兆8,774億円	(+486億円)
収支差	4,319億円	(+1,328億円)
準備金	4兆7,414億円	(+4,319億円)

※()内は、対前年度比。

Q

近年の決算は黒字が続いているようですが、協会けんぽの財政は安心なのでしょうか？

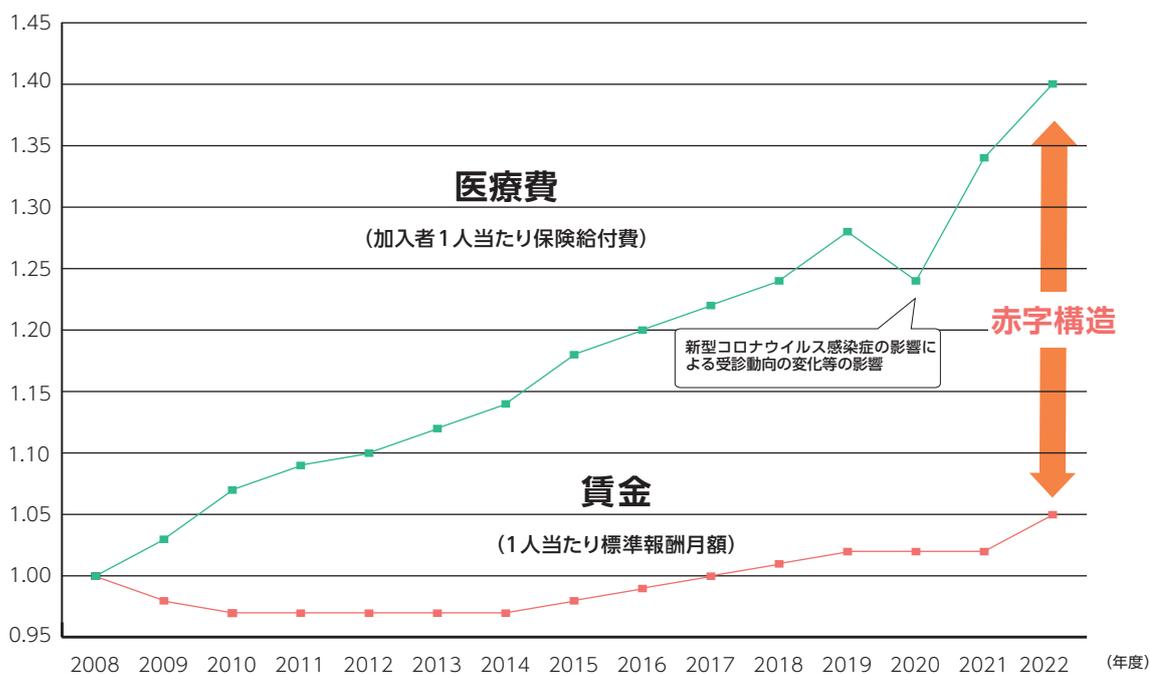


A

協会けんぽの財政は、**楽観を許さない状況**です。

- 協会けんぽの財政は、医療費の伸びが保険料の基礎となる賃金の伸びを上回る赤字構造です。
- 経済状況の先行きが不透明であることから、今後の保険料収入の見通しも不透明です。
- また、今後、団塊の世代が75歳以上となり、後期高齢者が増加することによって、**高齢者医療への拠出金の増加が見込まれています。**

●医療費と賃金の伸びの推移



※数値は2008年度を1とした場合の指数を表示したものです

加入事業所の約8割が従業員9人以下の中小企業である協会けんぽの財政は、景気変動の影響を受けやすい構造にあります。

また、医療費の伸びが賃金の伸びを上回る赤字構造に加え、高齢者医療への拠出金等が今後も増大することを踏まえると、財政状況は楽観を許さない状況です。

こうした状況を踏まえ、協会けんぽは、将来を見据えて、加入者の健康増進の取組を中心とした医療費の適正化をさらに推進するとともに、保険料率について、中長期的な観点から設定し、財政の安定 (=協会けんぽの持続可能性の確保) を図っています。